



図書館員がおすすめる

今月の推し本



一般書

『百年の時効』

伏尾 美紀／著（幻冬舎）



令和6年、ひとり暮らしの老人の遺体が自宅で発見される。現場となった部屋には老人から警察に宛てた手紙があった。それをきっかけに、昭和49年に主犯が逮捕されたものの、未解決のまま50年が経過した「佃島一家四人殺傷事件」が再び動き出す。

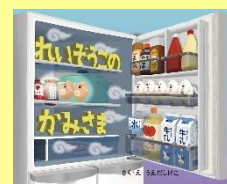
昭和の事件の捜査は、時間の経過とテロなど時代の様々な要因に阻まれながらも、担当した刑事の捜査ノートとともに平成、令和と受け継がれていく。

真相に近づいたかと思えば遠のく展開に翻弄されながら、刑事だけでなく犯人側の執念にも圧倒されます。

児童書

『れいぞうこのかみさま』

うえだ しげこ／作・絵（教育画劇）



しょうくんのおうちの冷蔵庫にやってきた「王さまたまご」は、「冷蔵庫の神様になりたい料理を強く願うと、夢がかなう」と聞きました。「プルプルプリンプリンセスになりたいーい！」と願いますが、ハムの階段につまずいて、なべに頭をコツンッ！ひびが入ってしまい・・・。

さて、王さまたまごの夢はかなうのでしょうか・・・。

読んだ後、お子さんと夢について話してみるのもいいですね。